婦人会研修の集い

◇向日町婦人会員・約八〇名で◇

●婦人会と婦人学級について
●婦人学級と話合いについて
●社会生活と生活改善について
●母親と子どもの問題について

向日町婦人会では去る八月十日(土)午後一時から四時半まで、向陽校講堂で、幹部約八〇名の方が参加されて、講習をおしての研修会がもたれました。助言指導者として、中山教育長、野村社会教育指導主事が協力され、まことに熱心な研究話合いがつづけられました。研究課題の趣旨について、まず中山教育長、野村主事、山本会長の対談が全体会で行われました。研究課題のとりあげ方と問題点についての解説があって、それぞれの分科会にわかれ話合いが行われました。

第一部会の「婦人会と婦人学級について」では、「婦人会と婦人学級の相違、婦人新旧のプログラムのもち方、その学び方など問題になりました。

第二部会「話合いについて」では話合いとはどんなことをするのかそのすすめ方はどのようにすればよいか、いままでのグループ活動とどのようにちがうのか、などについて、その必要性と持ち方についての研究が行われました。

第三部「生活改善について」では、衣食住の改善はどの程度実行できるものか、どのようなことが生活のむだといえるだろうか、生活改善の実行をはばんでいるものは何か、それをどのようにして改善したらよいか、などくらしの工夫についての話合いが活発でした。とくに結婚の簡素化については、具体的な項目について、アンケートを求めその集計についての発表もありました。実行についての新しい疑問もうかがわれて、解決問題の多いことを考えさせられました。

第四部会「母親と子どもの問題」については、親と子の考え方の相違、母親の子どもへの悩み、将来への願いや要求、家庭における母親の位置と母親の社会生活の在り方、などについて、子どものしつけ教育の困難さと、重要性について、しみじみとうったえられ発表もされました。新しい時代に育つ子どもの教育の問題は、母親にとってまことに切実な今日の課題といえましょう。四分科会にわかれての話合いは、どの部会も大変活発で、体験や批判、意見や希望などが、つぎつぎとり上って、時間の経過も忘れての学習でした。

分科会を終って、全体会に移り各分科会の話合いの要点について座長からの報告がありました。一歩一歩、進んでいく、動きつつある婦人会活動の実体に、まざまざとふれていく感を深くしました。この研修会が今後根をおろして、各地域でもっと具体的な事実を捉えて、小集団の話合いに成長するよう、さらに発展を期待したいものです。

九月講座

会場・教育委員会事務局

○家庭教育講座

一、題目「しつけの要点は何か」

子どものしつけの困難について、いろいろいわれています。が、そのしつけの要点はどんなことでしょうか「ここに眼をつけて、このようにすれば」というねらいがあるはずです。それを二人で具体的に話しあってみたいと思います。新学期の道しるべとして、あなたのものをとらえて下さい。

二、日時　九月四日(水)午後二時ー四時
三、講師　京都府教育研究所・渡辺　博氏
町教委・野村社会教育指導主事

○婦人教養講座

一、題目「婦人と時事問題」

最近の社会状勢は、私たちの家庭生活の問題についても、大切な動きを示しております。時世についていける、というのでなく「進歩と福祉の家庭生活」を育てるためにも、このひとときを有効に利用しましょう。婦人の自覚と協力を、新しい時代は求めているのです。

二、日時　九月十一日(水)午後二時ー四時
三、講師　京都新聞政経部長・野田祈助氏

婦人　主婦の立場・母の立場

（婦人学級）『話し合い学習』から

・婦人会研修の集い・
（写真読売新聞社提供）

婦人会の活動の中心が、最近ようやく婦人学級活動に重点を移してきました。学級は話合う共同学習によって、真実に自己の生活を深めていく個人の充実と、手をつなぎあって、世の中を幸福に、正しくしていく力の結集を育てる、学びの場なです。ここに婦人学級の歩みを照会することにしました。

話合い学習へ

向日町婦人会では、従来から各支部で、それぞれ婦人学級がもたれており、生花、洋裁、料理、読書会などのグループ活動が特色をもって、行われきましたが、最近になって話合いを中心とする、共同学習の学級が開かれるようになってきました。まだグループの数も少い現状ですけれど、このような小集団の学級が、こん後大きく発展してくるものと思われます。教委事務局でもこのグループ活動の助成には、大いに力をいれており、その成果も期待されております。

話合学習とは

小グループの話合い学習というのは、それぞれ共通の問題（解決したい問題）について、相互に話合って理解を深め、実践活動へとすすんでいくのです。この場合、適当な助言者があって、指導をうけることはとくに大切なことです。話合いが中心になるのですが、必要によっては講師の話をきく、映画をみる、資料を調べる、見学にいく、などの方法をとりいれて、多面的に具体的に理解を深めていきます。問題解決の道は、けっしてきまった一つの方法ではないのです。

どんなテーマが

いま、いくつかの婦人学級で、とりあげられている問題を照会いたしましょう。Aグループでは、「明かるい家庭をどのようにして育てるか」ーについて主婦の立場から、家庭を民主的な明かるい人間関係の雰囲気にするには、どのようにすればよいか、が話合われています。（親子の考え方の相違と相互の理解、新しい家庭の在り方と現在の家族の考え方、一家協力の仕方と生活時間の合理化、家族会のもち方）など、切実な問題です。

体験を話合う

話合いは自分の考えを主張し合うのではないのです。めいめいの悩みや成功した例など、経験したことや考えていることについて、資料としてだしあうのです。そうして自分たちの問題として、それを考えあっていくのです。そうした話合いが深かくなってくれば、やがて解決の道が拓かれてきますですからいえば、自分の道を発見する、考え方と意欲をもってくるところに、その利益があげられます。

問題の解決へ

話合い学習は、結局、人の意見をうけいれるのではなく、自分の問題解決に帰ってくるわけです。Bグループでは「よい子どもを、どのようにして育てるか」ーについて母親の立場から、しつけ教育の眼のつけ方と、その指導の仕方について話合われています。真けんに母親の悩みや願いが打ちあけられ、よい子どもへの期待に熱心な質疑や意見がかわされるのも、母性の尊い愛情なればこそでしょう。

理解するということ

究極するところ、問題の理解をどのように正しく深かくするかということが大切なのです。問題の解明には、独断や主観にたよるのでなく、理論的に科学的な立場からの意見や資料をじゅうぶんにとりいれることが必要です。最近、子どものしつけ教育においても、子どもの心理と社会環境の正しい理解が要求されているのも、考えなければならない観点です。

くらしの工夫

Cグループでは「ゆたかなくらしを考えよう」ーについて話合われています。生活改善の声は、もうずい分久しくきくことです。しかしその実践については、そんなに容易な問題ではないようです。がもち、どうにもならないといったあきらめの生活であっては、私たちの進んでいく意欲の生活とはいえないのです。生活習慣や環境などの身近かいくらしの中に、私たちの工夫できることを考えあっていきたいものです。

身近かい生活に

Cグループの話合いは、衣食住や家計の工夫などについて具体的な経験が話され、その思いつきや利益が、思いかけなく自分の生活の中にもあることを教えられて、よろこばれています。まず身のまわりの不合理を考えあうことが、大きな改善へのいとぐちとなるのです。私たちに、もっと頭をはたらかせた生活への意識が、どんなに必要なことでしょうか。

みんなと話合うこと

私たちは、ひとの前で意見をいったり、説明を求めたりすることが、あまり上手ではないのです。時にはいわねばならない当然の発言すら、思いのままいえないことが多くはないでしょうか。話合いが自然のことばで、必要なときにおだやかにできるようになることは、なんといっても大切なことです。小さなグループの婦人学級で、単に問題解決にとりくむということだけに意味があるのでなく話合いによって明かるい人間関係を育てることがまた、とりわけ大切な生活技術（拡充の機会）ともいってよいでしょう。

婦人会・青年団についての　実態調査実施

町教委事務局では、青年学級や婦人学級の運営指導上、必要な実態資料を得る目的で、今般実態調査を実施いたしました。この調査資料によって、青年や婦人のもっている問題の所在、自己意識、生活意慾の程度、内容などについてその一般的傾向を理解するためのものです。

その主なる項目を挙げてみると青年団員に対しては　①自己の教養についてどのような関心と時間をもっているか　②自己に対してはどのような生活技術、趣味、幸福感、悩みなどをもっているかなど、生活に対する態度について　③友だちに対する考え方や現在の交友関係について　④親に対してどんな考えや気持をもっているか、親子関係の心理について　⑤近隣や部落の風習人情について、どのように考えているかについて　⑥自己の悩みや不満について自由記述によるものなど六項目二五の質問になっています。

婦人会員に対しては　③子どものしつけ教育について、どのような態度方針をとっているかについて　④家庭内でどのような問題事情があるか、家庭関係の実状について　①②⑤⑥は青年団員とおなじ内容で、六項目二四の質問になっています。

今般の調査は、第一次調査の範囲ですけれど文献的にも実態把握の上にも、このような調査は府下を通じて、はじめての試みで、実状の認識に科学的な基礎を与えるものとして有意義な結果を期待されています。

向日町青年学級　体育大会と發表会開催

一、期日　九月一日(日)午後三時
二、発表会　○音楽クラブ　○習字クラブ　○生花クラブ
三、卓球・バレー大会
○参加資格・青年学級生及青年団員
○チーム、各支部一チーム以上
バレー、一チーム九名
卓球、一チーム三名
○申込　八月二十八日(水)までに青年学級主事又はクラブ長まで
○表彰　別の規定によって表彰を行います。

婦人会誌　原稿募集　向日町婦人会

題目『これでよいだろうか』

静かに考えてみると――これでよいだろうかと思うことがどんなに多いことでしょうか、家庭生活や近隣社会の問題についても、また自身の問題についても、もっと考えたいものです。あなたのありのままの感想の一編を、このさいにおよせ下さい。

要項
①、原稿　四百字詰一枚半（六百字）
②、締切日　八月末日
③、宛先　各支部長まで

教育相談室　④

向日町教育委員会事務局

相談日……毎週月・水・金午後一時ー五時
担　当……野村社会教育指導主事

成績のあがらない子ども

「成績のあがらない子」「できない子」と考えられているようです。が成績が伸びてこないというのには、なにかの理由があるわけです。その一つは、知能あるいは学習能力が境界線級以下に低くて、勉強のできない子と、一つは知能は相当にあるけれども、いろいろの原因で学習が振わないものとに分けることができます。いわゆる精神薄弱児と学習不振児です。

一般に学習不振といわれている子どもをみますと、いやいや学習するとか、ある教科がめだっておくれているとか、ある期間とくに成績がわるくなったとか、学習に興味がないとか――さまざまの態度特徴があります。その原因はまた、ひとりひとり何かの（当然の）理由があるわけです。

学習不振児の原因のうち、子どもの知能的なおくれや身体的欠陥に原因がある場合、家庭環境の不良に原因がある場合も少くありませんが、多いのは子どもの性格的情緒な要因にもとずくもの、たとえば、自立心が乏しい、社会性がおくれている。意欲がない、おちつきがない、など――情緒の不安定と自立心の未熟からくる場合が、きわめて多いものです。

Aちゃんは二年生の女の子です。遊び友だちがなく、わがままでよくおこります。いつも気げんをとるのが大へんです。知能指数一一八で成績は中の上といったところです。当然もうと成績があがるはずなのです。ー

Bくんは五年生の男の子です。幼い時から溺愛とあまい過ぎに育てられて、ひとり子のおちいりやすい性格をそのままもっていて、気がよわい、依頼がつよい、根気がないなど意欲に乏しい子どもです。知能指数は一二九で、上の段階ですけれど、学業成績にあらわれたところでは・中位といったところです。もっている能力をだしていない子どもなのです。――

成績のあがらない子どもの原因は、このようにさまざまの事情が重なり合って、子どもの伸びる能力をさまたげている場合が多いものです。ひとりひとりの原因を診断的につきとめて、指導の仕方を工夫することが大切です。

社会教育便り

―教委事務局―

◇学級活動

婦人会、青年団の活動として、従来の行事的な集会だけでなく小グループで問題を中心として話し合う「学級活動」がようやく芽をふいてきました。小さな集団の共同学習が、世相の推移となって活発になってきた現在、まことにうれしい発展です。教委でも助言指導のため、あらゆる援助をしたいと思っています。御相談をお待ちしています。

◇成人講座

婦人学級と教育相談所の開催が別記の通り開かれます。新秋を期して、一層の充実を図って開催いたします。講師の話をきく、ということだけでなく、できるだけみなさんの問題を中心として話合っていく、楽しみの学習にしていきたいと思います。みなさんの御希望の題目をおききかせいただきたいものです。御参加をおすすめいたします。

◇映画教室

親子映画から話す映画へ――教委では、スライドやフィルムのあっせんをしています。「教材としての映画」が利用されるようになったことはうれしいことです。小さなグループでも、こんな機会をもって、話合っていくうちに、もっと私たちを刷新していく生活が拓けてきます。御利用下さい。

◇教育座談会

教育相談所では、みなさんの御要望もあって、お母さん方、有志の方々のために"話題グループ"をもつことになりました。野村主事を囲んで「しつけ教育の要領」について、具体的に話合い教えをうける集りです。第一回は次のとおりです。どなたでも御遠慮なくお出で下さい。

しつけ・教育座談会
○日時　九月十八日(水)午後二時ー四時
○場所　教委事務局